

「人を診る」ための総合的な学習の取り組み ～附属病院総合リハビリテーションセンターにおける臨床実習を通して～

木村 篤史

医学教育研究センター リハビリテーション科学

附属病院総合リハビリテーションセンター

我々教職員の使命は本学の建学精神に則り、本学に入学してきた学生を「真の医療人」に育成することである。「真の医療人」とは様々な病を抱える患者の本質的な問題を東西問わず総合的に捉え、適切に対応することができるような医療者であると考え、そのためには、部分にとらわれず様々な視点から多角的に「人を診る」ことが不可欠であり、そのための教育を行うことが重要である。

附属病院総合リハビリテーションセンターには全学部の学生が訪れ、リハビリテーションに関する臨床実習を行っている。そこでは「全人間的復権」というリハビリテーションの真の理念とその理念を具現化するための総合的に「人を診る」ことの重要性を教授している。総合的に「人を診る」ということは日本の伝統的な東洋医学や看護学の思想においても共通することから、それらの歴史的背景を踏まえながら「人を診る」ことの重要性とその難しさについて教授する取り組みも行っている。

本学の建学精神に鑑み「人を診る」ということの本質を学生に伝えることが、我々教職員に課せられた使命であるものと重く受け止めている。